平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071800702		
法人名	有限会社　ケアサービス九州		
事業所名	ふぁみりー菰田		
所在地	福岡県飯塚市菰田西35－9－10		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果確定日	平成24年10月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に「地域社会とともに…」と謳っています。 社会資源を利用、活用することも大切ですが、我がホームを知って頂く、身近に感じて頂きたいとの思いから地域での行事・会合等には積極的に参加しています。また、ホームの催しは回覧でお知らせします。自治会の協力を得全組に回していただいています。　畑作りも継続しています。 白菜も漬けご近所におすそ分けです。大好評です。今、職員間で「こんにちは」「さようなら」のことばから、「行ってきます」「行ってらっしゃい」「ただいま」「お帰り」と家を意識した声掛けをしています。 利用者様から「お帰り」と迎えて貰うとホっとします。安心と満足をしていただける家庭的雰囲気のホーム作りに頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の具現化に向けて、3ヶ所の系列事業所でリーダー会議を順次開催したり、地域同業者の管理者とホーム管理者が相互に運営推進会に参加し、気づきや工夫、情報等を共有する取組みが継続している。また、地域自治会の回覧板に行事案内も継続され、恒例の秋祭りは45名が参加し、くす玉や炭鉱節、鳴子の演奏等で盛り上がるなど、地域交流も深まっている。今回、センター方式を活用した「今日のわたしのメモ」でさらなる思いや意向の把握を検討したり、気づきやケア方針・基本理念に基づいた記録ができる介護記録様式を採用している。そして、毎日の朝礼ではリーダーが、理念を具現化した月間目標を周知し、個々の入居者らしさが輝く支援に努めている。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**ふぁみりー菰田**

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、その日のリーダーを中心に「理念」を唱和する。 また、支援の統一をはかるため、月目標を決め、毎朝唱和し理念の意識づけを行う。	玄関や共用空間に理念を掲げ、朝礼で唱和している。その日のリーダーが朝礼で、理念を具現化した月間目標を周知し、笑顔が多く見られる声かけを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事・会合には積極的に参加をしている。また、ホームでの行事はお誘いする。餅つき・祭り等には多数の方が参加、出し物等も考え参加してくださる。	餅つき大会、秋祭り、ミニ運動会などのホーム行事の案内が地区自治会の回覧板にお知らせとして継続している。先日の秋祭りには45名の参加があり、くす玉や炭鉱節、鳴子の演奏等で盛り上がっている。いきいきサロンをホームで開催したい意向を関係機関に要望している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	貢献するまではいかないが、利用者様の散歩時地域のお年寄りの安否確認のお手伝いが出来れば。と民生・福祉各委員に持ちかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から・利用者様生活状況・行事・行事予定・職員で取り組んでいること等の報告、説明後、意見交換を行う。 毎回ではないがレクを紹介しながら、利用者様と交流していたり、認知症の勉強会も開催している。	家族、福祉委員、地域包括支援センター等の参加で定期的に開催され、会議碌を整備している。会議では他事業所が活用しているヒヤリハット賞が紹介されている。知見者として近隣同業者と相互に参加し、意見を交換することも継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの担当職員とは意見交換は行っている。　市職員とは諸手続きの折のみの相談で終わっている。	100歳を迎えた入居者の国・県・市の長寿のお祝い状授与に市担当者の来所をお願いし、家族が感涙にむせた。地域密着型サービス事業者連絡協議会が設立され、代表者は事務局を引き受け、協議の場が増えてい	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は7月より「福岡県身体拘束廃止推進員養成研修」にて学んでいる。 8月には、全職員マニュアルの再確認と事業所内研修を実施。身体拘束だけでなく、行動制限などゼロを目標にとりくんでいる。	毎月開催している勉強会で、身体拘束廃止の研修で学んだ意識改革に取り組んでいる。日中は玄関を開けているため、外出傾向のある入居間もない入居者の対応を家族と話し合ったり、外出の同行や声かけ等で、絶妙な対応を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	意識改革のため、上記 6(5)と同様研修、勉強会を行っている。 管理者は日常の支援の中で虐待と思われる行為はないか注意を払い、指導している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で知識の習得に努めているが、現職員に至っては研修の機会を得ていないが事業所内マニュアルは全職員確認済みである。 過去に司法書士の助言を得たことがあったようだが今後それらの必要ある時は活用、対応いていきたい。	運営者は系列事業所で成年後見制度活用を検討した経緯があり、制度を熟知している。制度に関する資料を整備している。	成年後見制度と日常生活自立支援事業の内容やその違いを理解するために、パンフレットの整備や研修会の開催をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族への説明は納得していただけるまで十分に行っているが、利用者様に至っては家族の希望で対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、ホームに来られた折等々に、お話が伺えるよう配慮している。玄関に意見箱を設置しているが活用の兆しが見られない。 今回ご家族、利用者様と外食をしたが、良い雰囲気だった。今後の課題に挙げてみたい。	秋祭り・敬老会開催時に家族会を開催し、8名の家族が出席している。家族からは、日頃のケアに対する謝辞や率直な意見交換が行われている。介護相談員の来所も継続しているが、ホームとの意見交換には至っていない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで十分な意見交換を行っている。 日々の申し送りでも意見交換の場となっている。 また、個々の職員と食を共にし要望等聞くように心がけている。	ミーティングや申し送りで意見交換したり、個別に意見の表出を促す機会を設けている。ヒヤリハットを気づきと捉えたり、月間目標を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の面談や管理者を通じて職員の勤務状態、個性等を充分に把握し、より良く働きやすい環境作りに積極的に取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、性別・年齢等の制限はしていない。 個々の能力に応じ働くことが出来るよう業務内容を考慮している。 研修においては外部の有識者を講師に招き全職員対象に、知識を深めあい自信を持って働けるよう配慮している。	口コミや民間広告、ハローワークで職員を採用している。資格取得や希望する研修参加を支援したり、2階に職員休憩所を設けている。法人系列事業所でリーダー会議を順次開催し、職員が働き易い環境整備に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間研修計画の中に必須研修として入れ込んでいる。13(9)に記述したように有識者を講師に招き全職員を対象としている。	年間研修計画で人権研修に取り組んでいる。管理者が認知症介護リーダー研修に参加し、入居者や職員の接遇に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は平等に受けられるように人選をする。 個人での研修は半期に1度希望できる。その際、出勤扱いで、受講料も事業所負担である。 また、事業所内勉強会は全職員交代で担当、発表の機会を作る。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県、市のグループホーム協議会に加入。 研修等は積極的に参加している。 地域内の福祉施設（3施設）とはお互い運営委員のメンバーとして交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に誤りがないよう職員2名体制で状態の把握を行っている。 また、ホーム見学をして頂き、納得の上での入居を勧めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望に至るまでの家族の苦労や努力を傾聴。 現在困っていること、希望を詳しく聞き、事業所と家族が同じ意識を持ち利用者様が生きがいを持って生活できる支援をすることを話す。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族の困りごとや悩みの解決のための支援を心がけている。グループホームで対応できないことの説明をし、介護保険外のサービス利用やインフォーマルの支援も視野に入れ対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家で生活していると捉え、お一人おひとりの出来ること探しをしている。 「持ちつ持たれつ」で利用者様の出来ることはして頂く自立の妨げにならない支援をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の参加、協力を求め了解を頂くこともあるが、ご家族の想いも充分に聴き、ゆとりをもって利用者様との関係が持続できるよう家族の事情に応じた配慮をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の知人や友人,との関係を継続できるよう場所の提供をしている。 また、地域で行われている「いきいきサロン」等の会場提供も積極的に行っているが、実現には至っていない。	家族会の開催や家族との外食を支援し、家族との関係継続を支援している。秋祭りや餅つき等は地区自治会回覧板で地域に案内し、地域との交流も継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日中テレビをつけることはやめにした。利用者様同士の会話、職員との交わりが多くなった。 現在、将棋が盛んである。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により退去されてもその後の情報を聞き、ご家族からの相談もあったと聞く。が、亡くなられてからの退去が主になり、関係が徐々に遠くなっているのが実情です。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人の過ごし方、考え方を伺いホームでもなるべくその意向に沿った生活が出来るように配慮をする。今まで使用してきたものや、こだわりのある事柄については継続できるよう配慮している。	センター方式を活用した「今日のわたしのメモ」でその時の私の様子や体調、出来事などを記載し、さらなる思いや意向の把握を検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ入居時に、ご本人やご家族から今までの生活状況を詳細に伺いアセスメントしている。 内容は、ミーティング時や連絡ノートを通して、職員全員がそれを把握出来るようにし対応に活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを基本に入居後の本人の言動からも日々の過ごし方や心身の状態、出来ること出来ないことを把握するように努めている。職員は些細な言動もよく観察し、記録し職員の統一した理解をするようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは日々チェックしている。毎月行われるケアカンファレンスではその成果と新たな課題に付いて全職員から意見を聞く。家族からも意見を伺い、相談をし速やかに介護計画に反映するよう努めている。	介護記録を見直し、気づきやケア方針、基本理念に基づいているかを記録できる様式を採用している。担当者会議や家族の意向に沿って介護計画の立案や見直しをしている。	ケアの総合方針を実践するために、より具体的でモニタリングしやすいケア内容の記載をお願いしたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子は日々の申し送り・介護記録に詳細に記録している。特に職員に理解してもらいたいことや提案等は連絡ノートに書き、出勤時目を通した上で業務に入ってもらう。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族や仕事などの事情で病院受診に付き添えない場合は職員が代行している。その他の予定にない要望等にも出来る限り支援するようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近郊の福祉施設や学校の運動会、祭りに参加し青空の下でのお昼にも舌鼓。 地域での「いきいきサロン」にも参加を前向きに検討中。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に入居者様、ご家族の意思を確認。地域内にあり、緊急時対応ができる、かかりつけ医となっていただいている。重篤な場合には緊急搬送できるよう救急病院との連携体制もできている。	近隣のかかりつけ医による週1回訪問診療を支援したり、近隣の総合医療機関に受診できるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回（木）看護師による訪問があり、お一人おひとりの状態に応じ適切な処置をして貰っている。介護員との連絡、報告は密に取り合っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、安心して戴けるよう頻繁に様子伺いに行っている。担当医や担当看護師にも定期的に経過状態を伺い退院後の対応に備えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には事業所の方針を家族に示し、意見や要望を聞く機会を作っている。 かかりつけ医や訪問看護師の協力も得ながら家族の希望に添えるようにしている。	終末期を4段階で分かりやすく記載した方針を整備し、随時家族に説明している。1日の経過で看取った入居者もあり、通夜の席に好物のお寿司と饅頭を供し、親族から謝辞が述べられている。先日100歳を迎えられた入居者は、最期までホームでと希望されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し研修でも取り組んでいる。 事故があった場合には原因究明をし、防止と対応に備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。 水害被害が予想されるときは、非常時連絡の確認・避難経路の確認をおこない、慌てずに行動することを再度確認する。 また、常時非難食の賞味期限を確認する。	町内会との近隣防災協定で連絡網を整備している。消防署の指導による避難訓練では、緊張のためホーム住所や通報がスムーズに出来なかったことが課題となっている。飲料水や水で炊けるお米等を備蓄している。今後はAEDの取り扱い等の学習も予定している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画の中に必須研修として「プライバシー保護の取り組み」を全職員で学んでいる。 日々の対応や声掛けにも注意を払いプライバシー侵害とみられる事例がある場合はその都度、注意指導を行う。	理念に人としての尊厳を掲げ、日々の声かけや言葉遣いについて、学習会や話し合いをしている。入居者の心身の状況や特徴を理解しながら、穏やかな声かけが実践されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個々の動きや言葉を通して本人の希望を組とりご自分で表現できるように促している。「髪が切りたい」「散髪行きたい」等の声が聞こえれば、理髪店に行ったり、ホームで対応したりする。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決められているが、個々の利用者様の希望・要望には応えられるよう配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、お出かけ時の洋服選びはご本人の希望を聞くようにしている。職員の独断で決してしないことを申し合わせている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食一緒に食事作りをすることは厳しいが、馬鈴薯の皮むき、豆の筋とりと出来る方にはお願いする。毎回して頂いてるのはテーブル拭きに手消毒は担当が決まってきた。ご自分から行動されるようになった。	入居者の状況に配慮しテーブルを2つに分けている。職員も同じ食事を摂りながら、見守りや声かけをしている。全員が箸を使い、それぞれのペースで和気藹々と食事をしている。全量摂取の入居者がほとんどである。下げ膳を手伝う男性入居者もあり、他の入居者や職員にも声をかけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量のチェックは必ず行い記録し、 栄養不足、水分不足にならないよう心がけている。体調不調時等は高カロリー飲料や調理方法、材料に工夫をし提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でケア出来ない利用者様については毎食後職員が誘導し口腔ケアを行っているご自分でケアできる方は声掛け、見守り、確認を行いチェック表に記入。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁があるからとむやみにオムツへの移行はしない。その人の状態に応じてトイレでの排泄を継続できるよう心掛けている。 排便排尿のチェックをしパターンを知り誘導、介助の時期の参考にしている。	オムツ着用の入居者はない。尿取りパットの着用はあるが、声かけや誘導でトイレで排泄している。日中はトイレ、夜間はホータブルトイレの使用を支援している入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については利用者個々のパタンを理解し、水分摂取や繊維食物の活用等を勧めているが、困難な場合は医師の指示を受け適切な服薬で便秘の予防をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回としているが；本人様の要望があればいつでも入浴できる体制は整っている。入浴は本人の体調を見ながら行うが、バイタルに異常がある時は納得されるまで十分な説明を行う。	月・水・金の入浴を日課としている入居者もあるが、希望があれば毎日でも入浴できる。入居間もない入居者には、夜間帯が職員1名であることを話し、午後からの入浴をお願している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもその人の状態や希望に応じて休めるようにしている。　車椅子使用の方に関しては、お昼から1時間程度ベットでの臥床の声掛けをしている。（足の浮腫軽減のため）		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については全職員理解している。服薬間違いがないよう準備・確認を2名で行い。服薬支援時は本人様に声掛け確認する一連の確認はチェック記入も行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみや嗜好品を理解し、付き添い、見守りを行う。　喫煙場所の設定や散歩、畑作業の見守り同行など。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の支援として、カラオケ・温泉・食事など本人様の希望に添ってでかけている。また、初めての取り組みとして家族同伴の外食も行った。良い雰囲気だったので他のご家族でも試みたい。	入居者の1人ひとりの状況や希望に応じて、外出計画を立て、個別の意向に添った支援をしている。帰宅願望の入居者と自宅へ同行したり、温泉好きの入居者は、職員の同行支援で、近隣の温泉地めぐりを継続している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際には、出来る限りご自分で選択して戴き支払いの出来る方についてはして頂いている。　厳しい方については職員の独断でするのではなく、確認して戴いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば電話の応対をしている。手紙については年賀状を書くお手伝いをするぐらいである。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間がフロアになっていて利用者様のどの部屋からも集いやすくなっているため殆どフロアで過ごされている。今夏は大きな窓いっぱいに、琉球朝顔・瓢箪・ごうやでグリンカーテンを作った。窓越しに朝顔やごうや瓢箪が見え楽しまれています。	通りに面した玄関は大きく開かれ、玄関前にはベンチや季節の草花が植えられたプランターが設置されている。玄関入り口の喫煙コーナーで食後の一服を楽しむのが日課となっている入居者が、下駄箱の整理をする姿も見受けられる。居間にはテーブルや椅子、ソファ、畳の間があり、午後のゆったりとした時間に仲の良い入居者同士がソファでまどろむ姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室は自由に使えるようにしています。　ご家族や知人も気兼ねなく過ごしていただけるよう空調の整備もできています。ドアを閉めると静かな空間が生まれます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族の好みで家具・装飾などは自由に配置して頂いてます。危険でない限り本人様の意思を尊重している。	居室入り口にお名前が記載されている。弾力性のあるフローリングと畳の居室があり、それぞれに家族の写真や日用品が飾られている。入浴は月水金と掲載したり、持参したマッサージ器で足や肩をほぐしたりと、居心地良い居室づくりがなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が歩かれる場所にはすべて手すりをつけており、排泄に時間がかかる方のために便座の背もたれにクッションをつけ苦痛の緩和等の工夫をしている。　全館バリアフリー作りになっている。		